

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅰ》</p> <p>【奈良市立春日中学校夜間学級】</p> <p>・学習指導に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>本校の生徒は日本国籍だけでなく中国・韓国等の多様な国籍を有し、その来日の時期や理由も一律でないことから、日本語の習熟度や学習状況も様々な生徒に対する学習指導が課題であると考えている。そこで生徒一人一人の学習の状況を的確に把握する方法及び個に応じた指導の在り方について研究することで生徒の学力向上に資することをねらいとする。</p> <p>1年間の学習のまとめとして文集を作成する。</p>
調査研究の成果	<p>基礎・基本の定着に向けた指導の在り方についての研究を通し、生徒一人ひとりの学力の向上を図り、日々の生活の質の向上を目指した。</p> <p>生徒の実態把握に努め、また、日本語の指導方法等についての研修会を実施するとともに、先進校視察を行い、学習指導法や、入学希望既卒者の受入れに関する知見を広めた。</p> <p>【7月】</p> <p>・校内研修</p> <p>「中国語、英語でない生徒への対応について」をテーマに講師を招いて日本語学習指導についての研修会を行った。</p> <p>研修を通し、夜間学級における日本語指導の意義や重要性を職員間で共有することができた。夜間学級の生徒が必要とする「日本語」の力とは何か、また、日本語指導についての基本的な考え方について確認し、今後の指導方法の改善点を見出すことができた。</p> <p>本市夜間学級では、ネパールからの生徒が増加している。ネパールの教育制度や、政治、経済、文化だけでなく、来日の理由にも変化があることを知ることで、生徒理解の上でも大変意義深い研修となった。</p> <p>【9月】</p> <p>・校内協議</p>

高校進学希望生徒に対する学習支援の方法について校内で協議し、新たに職員間の協力体制を整えた。

【10月】

・校内研修

「みんなで使えるICT環境を作る」をテーマに講師を招いて、ICT機器を使った授業づくりに関する研修会を行った。

文字の習得や学習内容の定着を図るうえで、ICTを使用していくことは効果的であることや、PCで使用できるソフトにも、夜間学級において活用できるものが多いことなどが分かり、ICTの重要性を再認識した。しかしながら、これまでICTを使用した授業展開は少なく、実際に授業等で使用していくためには、教員が研修を深めていくことが必要不可欠である。

・校内協議

生徒の実態を把握するために、各生徒の学習状況を報告し合った。これにより、教員間で情報を共有し、共通理解を図ることができた。それを基に、教材の作成や指導方法の改善に活用するものである。

【11月】

・校内研修会

「日本語の授業をデザインする基礎と工夫」をテーマに本市教育委員会事務局学校教育課の日本語指導コーディネーターが講師となって、日本語指導についての研修会を行った。講義では、カリキュラムデザイン、シラバスデザイン、授業の組み立て方、日本語授業におけるポイントになどを取り上げられており、具体的な教材や、教材の使い方等の研究に役立った。

生活言語を習得していくうえで、日常生活に結びつけて学習していくことが大切であることを踏まえ、指導していくことが必要である。また、日本語だけでなく、各教科の指導内容への具体的な活用方法については来年度の課題である。

【2月】

・先進校視察（東大阪市立布施中学校 2名）

学習支援の取組や、入学希望既卒者の受入れ体制などを学ぶため、同校夜間学級研究発表会に参加、又は授業参観という形で、東大阪市立布施中学校を訪問し、2日間の視察を行った。

大阪は奈良と比較すると、集団指導型の授業が中心であり、高校進学希望者も多い。同校では、既卒者や進学希望者も通常の学

級で学習をしているが、進学希望者への学習支援としては、3月に受験をする生徒に、必要に応じて土日に指導しているのみであった。本市夜間学級では、進学希望者に対し、9月より抽出して授業を行うなどの支援を行っているが、訪問校ではそのような形での支援は行われていなかった。今後も、更に具体的な事例を集め、指導方法等についての研究を続けていくことが必要である。

・ **文集の作成**

生徒の1年間の学習の成果をまとめ、文集を作成した。完成した冊子は生徒や、市内小中学校、教育関係者に配付する予定である。

来年度からは、本市でも入学希望既卒者を受入れることになっており、今後さらに多様化する生徒に応じた指導を行っていくことが求められる。本研究を通して得たことを次年度に活かしていきたい。